

創意と工夫で挑む旅客輸送の課題

～ 地域輸送とインバウンドに湧く飛騨の観光を支え続ける ～



濃飛乗合自動車 株式会社

代表取締役社長

水野 敏秀 氏

- 住 所：高山市花里町6-125
- T E L：0577-32-0045
- U R L：<https://www.nouhibus.co.jp/>
- 事業内容：一般乗合旅客自動車運送事業、一般貸切旅客自動車運送事業、一般乗用旅客自動車運送事業、旅行事業、ドライブイン事業、販売事業
- 従業員数：295名（2025年3月現在）

■ 地域輸送に観光路線、高速バス、貸切バス 平湯ではドライブイン事業も

聞き手：まずは事業内容について詳しく教えてください。

水野社長：乗合自動車事業では、4つの柱があります。まず、高山と下呂を結ぶ下呂線、古川を経て神岡までの神岡線などの地域輸送。2つ目として高山と新穂高ロープウェイや上高地への岐阜県側の入口である平湯温泉を結ぶ新穂高線や世界遺産白川郷を結ぶ観光路線。3つ目として東京・大阪・名古屋、北陸方面への高速路線。そして4つ目として高山市の「まちなみバス」や「匠バス」、飛騨市の「ひだまる」などの自治体の自主運行バスの一部も当社で請け負っています。それぞれの路線に通学の方が多いとか、インバウンドのお客様が多いといった特徴があります。中でも新穂高線はアジア系の方、白川郷線は欧米の方が多かったです。

貸切バス事業は飛騨エリアを中心に自社や旅行エージェンツの仕事を受注しています。コロナ禍で日本中の貸切バスの台数は減り、今も不足している状況ではありますが、当社の貸切バスは乗合バスの増発便としても稼働しています。さらに、平湯温泉では売店・レストランが併設されたドライブインを営業しています。以前は日本人のお客様が多かったのですが、コロナ禍が終息してからは外国人のお客様も増えました。売店ではアジアのお客様は「さるぼぼ」やアニメにちなんだファンシーグッズ、欧米のお客様はカットフルーツや大福餅などその場で消費できる商品が人気です。

聞き手：では、御社の歴史や転換期等についてもお聞かせください。

水野社長：もともと日本のバス事業者は、太平洋戦争前は

乱立状態でした。国策として統合が進められ、濃飛バスも昭和18年に近隣のバス会社を統合し設立され、令和5年に80周年を迎えました。昭和30年代から40年代前半にかけては乗合バスの需要も高かったのですが、その後マイカーが急速に普及すると、昭和40年代後半には苦境に陥りました。ちょうどその頃、都市部の私鉄が系列化を始め、当社は昭和43年に名古屋鉄道㈱の傘下となりました。

ただ、輸送密度の低いエリアですから、しばらくは労使ともに苦しい時期が続きました。そこを脱するきっかけは、白川郷や五箇山が平成7年に世界遺産になったこと。さらに、平成9年には安房トンネルが開通、松本への通年の通行が可能となり松本線、翌年には新宿線の運行を始めました。平成12年には東海北陸自動車道の飛騨清見I.C.ができ、名古屋線、京都・大阪線が運行を始め、まさに高速道路網に支えられる状況へと変わっていきました。平成20年には飛騨トンネルが開通、白川郷への所要時間が飛躍的に改善されました。

■ 高速バス路線と観光路線とが会社の両輪

聞き手：昔はこのエリア内だけの輸送だったんですね。

水野社長：そうですね。当社は終戦後すぐの頃、乗鞍スカイラインの建設にも関わっていました。平成15年にはマイカー規制も始まりましたから、当時の社長に先見の明があったと言っていると思います。

現在は観光路線と高速バスとが当社の両輪で、それらがあるおかげで輸送密度の低いエリアの運行も、減便・廃止せずに続けることができています。

聞き手：観光路線をはじめとして、やはりコロナ禍で大きく変わったこともあるのでしょうか。



■乗鞍スカイライン

日本一標高の高い所を走るバス路線。当社のイチオシの路線で、終点の畳平は海拔2702メートル。天気がよければ高山や松本の街をはじめ遠く富士山まで望めます。

■白川郷の美化活動

毎年雪解けの時期に実施。世界遺産の景観維持、地元の方との良好な関係維持に役買っています。秋には同様の目的で上高地でも清掃活動を行っています。

水野社長: 本当に変な時代でした。従業員の働く場所は確保しようと人員整理は避けてきましたが、3年間は大きな赤字が出ました。ここ2〜3年のインバウンド需要のおかげでなんとか回復できたというのが正直なところですよ。

しかし、インバウンド一辺倒のままでは、もし疫病や他国の情勢等で状況が変わったら、お客様が来なくなってしまう。ですからコロナ禍により「リスク分散をしておく必要がある」とも考えています。

そのためのカギは日本人観光客と自治体との関係だろうと思っています。「外国人で混み合っている」「宿泊費が高騰している」といった理由で日本人のお客様が高山への旅行を敬遠している傾向が最近見受けられるような気がします。さらに多客により飽和状態にある高速バスは高山に来たい人に対するボトルネックにもなっています。こうした問題を解決した上で観光路線のサービスの多角化や柔軟な対応、遊休施設の活用なども取り組みたいところですが、そこにはどうしても「人」の問題が絡んできます。

聞き手: 現在は本当に人集めが大変な時代となりました。

水野社長: その通りです。当社の新入社員はIターンの方が大幅に増えています。「高山に住みたい」と言っていただけことは本当にありがたいことですが、問題はいかに定着してもらえるかです。そうした社員に地元で馴染んでもらうため、高山祭など地域のお祭りへの参加や、飛騨市の「ヒダスケ」という行事参加型プログラムを社員に紹介したりしています。

インバウンドへの対応の必要性から最近では外国人の従業員も増えました。中国、台湾はじめスリランカやミャンマーからの方も当社で働いています。生活習慣や労働観など日本人との違いもあり大変な面もありますが、皆さんとても仕事熱心で助かっています。お客様も外国人が多いので従業員にはいつも多様性への理解と寛容が重要であると話しています。

また、社員旅行については個人の負担をできるだけ減らす、コースを選べるようにする、初日の夕食以外は自由行動にするなど、居心地の良い時間になるよう配慮したところ、今年は8割程の社員が参加してくれそうです。

■「働きたい」と思ってもらえる職場にするために

聞き手: 運送業界では2024年問題もありました。

水野社長: 私が就職した頃は「役員よりもドライバーのほうが稼いでいるんじゃないか」と言われるくらい、ドライバーの

収入には高いものがありました。しかし、重大な事故が相次いだことから監督官庁による健康管理基準や連続運転時間規制等が厳しくなり、結果として時間外労働が減少、ドライバーの収入は低下しました。そもそも大型二種免許を持っている人材自体も全国的に見ても少なく、深刻なドライバー離れが生じています。

そこで人材確保のためにも、当社では今年から時間外労働の削減や休日を増やす取り組みをしました。ただ、現業の仕事はなかなか減らないので、時間外手当の改定や特定の仕事に対する手当の新設を行うとともに、回送便の実車化、バスの現在地をGPSで把握、効率的な配車とお客様への情報提供も行っています。さらに繁忙期の観光路線は公示の時刻よりも前倒しで増発し、お客様をお待たせせずに目的地までご案内するサービスに心がけています。事務職においては事務手続き業務の簡素化、予約業務や清算業務のIT化を推進しています。いずれの施策も社員の労働時間の短縮に繋がっています。現在の上司層はサービス残業も当たり前の時代を過ごしてきましたが、これからの世代に働いてもらうためには、私たちが変わらないといけないと思っています。

聞き手: 最後に、休日の過ごし方はいかがでしょう。

水野社長: 山登りやバイクに乗るのが好きですね。今はもっぱら低山ですが、若い頃は槍ヶ岳や穂高連峰にも登りました。世間の人からはどちらも危険だと言われがちですが…。

聞き手: 今年は熊問題もありますからね。では山岳エリアの新事業なんていかがでしょうか。

水野社長: 今後はグループ他社との連携も含めて、高付加価値の輸送サービスを考えていく必要があります。乗って楽しいバスだとか、待っている時からワクワクするような施設、仕掛け等、輸送だけではない部分での価値やサービスを提供していきたいですね。そして、地域の魅力がもっと増えていけば良いなと考えています。

聞き手: 本日は貴重なお話をありがとうございました。

聞き手 (一社)岐阜県経営者協会 広報部会委員

高山信用金庫

常務理事 経営管理部長 **建石 隆**

経協ニュース

「大学と企業との情報交換会」を開催

10月20日(月)グランヴェール岐山にて開催し、県内大学9校(18名)、会員企業44社(58名)にご参加頂きました。

本事業は岐阜県学生就職連絡協議会と当協会の共催による初開催となり、大学のキャリア支援担当者と企業の採用担当者と双方が学生の就職支援や採用状況について情報交換を行うことで、より効果的な採用活動や学生のサポートを目的に実施いたしました。

当日は第1部・名刺交換会、第2部・情報交換会による2部制で実施し、新たなパイプ作りの場をご提供することができました。



第11回 7支部事務局連絡会議を開催（飛騨支部主管）

10月28日(火)第11回目となる7支部事務局連絡会議を飛騨支部主管のもとで開催し、各支部より計18名のご参加を頂きました。

視察先には(株)和井田製作所へ見学させていただき、最初に会社説明及び名刺交換会を実施した後に、コア・テクノロジーである『精密研削加工技術』について実際に工場内を回りながら解説をいただきました。

その後は会場を移し「ひだホテルプラザ」にて情報交換会・懇親会を行い、7支部間の交流を深めました。



第2回 人事・労務に関する無料相談会を開催

11月5日(水)岐阜商工会議所にて、「第2回 人事・労務に関する無料相談会」を開催いたしました。

本相談会は「賃金体系・水準」、「労働紛争」、「労働時間、休日・休暇」、「就業管理・ハラスメント」、「労働規則、規定」、「教育・賞罰」など何でもご相談いただけます。

今回は1月14日(水)岐阜商工会議所 会議室にて開催予定ですので、ご関心ある企業様はぜひご予約ください。

※当協会HP“現在募集中のセミナー”よりご予約いただけます。

(右側 QRコードより予約先へのアクセスも可。)

【今後の開催スケジュール】

第4回	1/14(水)
第5回	2/4(水)
第6回	3/11(水)

「現在募集中のセミナー」
はこちら



教育部会 中間報告会を開催

11月11日(火)グランヴェール岐山にて開催し、事務局より今年度の活動報告と今後の計画について説明を行いました。

その後、各種研修や講座の方向性、名称変更、運営方法などについて委員から幅広く意見をいただきました。

次年度に向け、講座内容の充実や実施形態の見直しなど、多方面での検討が進めて参ります。

※今後の教育事業スケジュールは右記の通り

【今後の開催スケジュール】

4/2(木)～4/6(月)
新入社員研修

5/14(木)～7/17(金)
第60回 岐阜県監督士養成講座

5/14(木)～6/4(木)
監督士養成講座と同時開講／部門問わず
リーダー養成講座
(旧「初級管理者養成講座」)

第3回 人事・労務セミナー

11月13日(木)グランヴェール岐山において、年間4回計画している第3回目として開催しました。

会場とWEB(Zoom)でのハイブリッド形式で行い、50社より約80名にご参加いただきました。

講師の河村 俊樹氏(河村労務研究所 社会保険労務士)より、「攻めの就業規則」をテーマに解説いただきました。

次回「第4回 人事・労務セミナー(賃金と労働を考えるセミナー)」は、2月12日(木)に開催予定です。



2025年度 労務管理セミナーを開催 西濃支部

10月21日(火)ハイブリッド形式にて(一社)大垣労働基準協会・大垣労働基準監督署・岐阜県労働基準協会連合会との共催にて開催しました。

セミナーでは4つのテーマについてお話いただき、一つ目に大垣労働基準監督署 第一方面主任監督官 山中 美哉子氏より「労働相談から見る労務管理上の留意点について」、二つ目に労働衛生コンサルタント 笠原 幸治氏より「職場における受動喫煙対策について」、三つ目にハローワーク大垣 外国人労働者専門官 市岡 雄志氏より「障がい者雇用と外国人労働者の雇用管理」、四つ目に㈱イビデンキャリア・テクノ 保全部 治工具メンテナンス課 次長 福富 克典氏より「障がい者雇用推進と安全活動」についてご解説をいただきました。

参加者は74社(102名)となり、非常に盛況に実施されました。



第20回 飛騨支部版管理監督者養成講座を開催

飛騨支部

10月22日(水)～23日(木) 飛騨世界生活文化センターにて毎年1回有志企業6社の人事担当者による手づくり講座として開催しており、今回は飛騨地区の企業10社より22名の職場のリーダーおよび候補者の方にご参加いただきました。

受講者と講師が一緒になって考えることをモットーとしており、職場のチームワークを発揮するためのリーダーシップや上司・部下とのコミュニケーションについて、ゲーム形式のワークショップやグループ討議を通じ、体験と意見交換を行うことで、理解を深めていただきました。



障がい者雇用について考えるセミナー 岐阜支部

10月31日(金)会場とWEB(Zoom)でのハイブリッド形式にて開催し、34名(会場5名、オンライン29名)にご参加いただきました。

講師には、三宅社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士 三宅 禎之氏をお迎えし、テーマを「障がい者雇用について考えるセミナー」と題してお話いただきました。

講師からは法定雇用率が今後変更になる点や、今後企業が備えることについて解説いただき、受講者は今後どのように自社に取り組んでいくか考える機会となりました。



～会員の皆さま～ 新規会員を募っています。

当協会では、より多くの県内経営者の皆様に岐阜県経営者協会をご利用いただきたく、新規会員企業を募っています。当協会の趣旨にご賛同いただける経営者の方がいらっしゃいましたら、事務局員がご説明にまいりますので、何卒ご紹介くださいますようお願いいたします。

岐阜経協の活動は、当協会ホームページ(<https://gifukeikyo.org>)でもご覧いただけます。

人と経営 12月号

(第74巻12号通巻579号) (2025年12月1日発行)

■編集発行人

広報部会長 堀 部 友 里

■発行所

一般社団法人 岐阜県経営者協会

〒500-8833 岐阜市神田町2-2 TEL 058-266-1151 URL <https://gifukeikyo.org/>

■印刷・製本

株式会社印刷工房 〒501-0597 岐阜県揖斐郡大野町下磯750-1 TEL 0585-36-0201